

建設トッププランナー倶楽部がフォーラム

地域のインフラメンテテーマに

新事業や技術開発に取り組む地域の建設業者らで構成する建設トッププランナー倶楽部（代表幹事・米田雅子慶応大学特任教授）は『地域のインフラメンテナンス』第4次産業革命の胎動』をテーマに、第13回建設トッププランナーフォーラムを6月29日、東京・内幸町のイイノホールで開いた。地域維持型発注やメンテナ

ンス技術開発、ICT活用の事例などを発表し、これからの地域のインフラメンテナンスについて話し合った。

フォーラムの冒頭、趣旨説明に立った米田代表幹事は、「膨大な社会基盤の老朽化が進み、地震や豪雨が多発する中で、災害から人の命や暮らしを守るために、地域のインフラメンテナンスが喫

緊の課題になっている」と指摘。「担い手不足や限られた財源など厳しい状況だが、地域を健全な形で次の世代に引き継ぐことが、地域建設業の使命」と強調した。

石井啓一国土交通相や齋藤健農林水産相らが来賓として訪れ、防災やインフラの老朽化対策などの政策的課題に対応する上での建設業の役割の重

要性を強調、協力を呼び掛けた。石破茂元地方創生担当相も駆け付け、日本人口減少などの問題への対応に関して、「知



行政や建設業の関係者ら約350人が会場を埋めた

恵は現場にある。皆さまから知恵を頂き、政策に生かしていきたい」と呼び掛けた。

第1部の『ICT技術がメンテナンスを変えらる』では、「北の大地でICT施工」と題して砂子組（北海道）の砂子邦弘社長とICT T施工推進室の奥村亜美さん、

第2部の『地域連携による新たな取り組み』では、栃木県北建設業協同組合の星豪紀広報委員長が「組合受注によるメンテナンス体制強化」、宮下地区建設業協同組合（福島県）の滝沢康成理事が「ビッグデータを活用したスピーディーな路面現状把握システム」について話した。

『未来づくりとICT』と題した第3部で、フタザワコーポレーション（長野県）の福澤直樹社長が人材育成とICT、AIの活用」、山善（神奈川県）の山本善一社長が「森林整備における新たな取り組み」について講演した。

さらに第4部として、「これからの地域のインフラメンテナンス」をテーマに、全日本建設技術協会の大石久和会長、農林水産省の室本隆司農村振興局長、林野庁の沖修司長官、大高建設（富山県）の大橋聡司社長、米田代表幹事が話し合った。

非GPS